

失敗も経験した方が人生楽しいかなって

語り手 梅谷 龍（高校二期生 会社員） 聞き手 門野 滯良

色とりどりの高校での生活

―え、何で「立守」に入ったとか、ありますか？

なんやったんやろなあ。できた当初、本当に二期生とかやから、新しいとこ行ってみたいなののはあったかな。うん。もうなんていうんやろ。普通、大学生になる人ってセンター試験とか受けるやんか。やけどそれがないっていうのも、あんまり意識せずに入ってしまったから、逆に言ったら、その苦労とか味わってない分だけ、話ずれたりするから、若干コンプレックスみたいになってるとこともあるけど。とはいへ、私の時代は高校の卒論とかあったし、まあまあ他の人と違うことはできてるかなとは思うけどね。今もあんなのかな？

―卒論はないですね。ただ、中三の時に「卒レポ」っていうレポートを書かれます。

おおー。それは何について書いたん？

―それは、理科の実験を、自分で考えて、一からやって、そのレポートを書きなさいっていう。

うっわ、えぐいね。すごいことやってんね。面白いことしてんね、ほんま。面白いことするよね、この学校ね。「そんなんやってんの」って絶対言われるしな。でも、そういうのが楽しいんやけどね。

―海外研修とかもあるから。

行くんか。卒業の時、修学旅行あるやんな？

―修学旅行がそれみたいな感じです。

*

はい。それ、「思い出の写真」って言われたから。はい。（梅谷さんと田辺先生のツーショットの写真の写真を渡してください。）

―え、あ、田辺先生（笑）。

めっちゃ面白い（笑）。これ絶対うけると思ってた（笑）。

―え、すっごーえ、若っ！田辺先生。

若いな。ま、今どんな感じかわからんけど。

―え、でも変わってないと思います。ちよつと。え、でも全然変わってないかも。

そうか。（クラスの思い出冊子のようなものを眺めて）田辺先生のクラスやね。

―え、中見ていいですか？

あ、全然いいよ。

―ありがとうございます。え、こんなんあったんですか？

あった、あった。今はもうやってないのかな。管理しきれへんのかな。

―（クラス全員の紹介ページを見つけて）え、これ一人ひとり。（梅谷さんを見つけて）カウんセラーやったんですか？将来の夢。

うん。なりたいたいと思ってたけどね。でもな、「こっちが病むわ」って思ってたやめた。はっはっはっはは。病んでまうわこれ、と思って。

―自分も結構メンタル弱い方なんで、大変です。

なあ。自分で自分のメンタル上げていくの、大変やんな。

―そうなんですよ。自分、ほんとに弱いんですよ。豆腐みたいで。

なあ、だってギャン言われたらな、しゅーんってなるよな。

—なります。なります。(もう一度クラスの写真眺めて)

年下やったからな、みんな。なんて言うかな、年上のやつがクラスにおつても、普通にやってくれたなと思うね。

—めっちゃいいですね、それ。今、結構退学しちゃう人多くて。

うっそ。まじ？

—そうなんです。梅谷さんと同じ状況になったら、今は結構みんな退学してます。だから、なんで「残ろう」って思えたんかなって。何かきっかけあつたんかなって思ってたんです。

あるなあ。まあでも、そもそも私がなんで休んだかって言ったら、小学校も中学校も勉強してきてるやん。普通にやって、普通に来まして、みたいな感じなんやけど、別に勉強めっちゃ好きな状態でもなかったんよ。で、高校来て、「あ、また勉強すんねや」ってなって。今考えたらそれは当たり前やん(笑)。勉強して、勉強して、社会人になっても、また勉強するのか、って。うん、もう無理やわってなって、「一年休もう」って思ったんよ。

初っ端の授業を一発目に受けた時の衝撃がさ。授業が始まって、「こらへんの高一の内容なんか、もうどうせみんな中学三年でやってるやろうから、あんまり言わんけど」って言われて。始まって、「うん、待ってくれ」と。「やってない、やってない」ってなるやん。そりやみんなさ、優秀な方多いから、二年、三年先のことも当たり前みたいな空気で。今やったら、もしかしたらそれが普通なんかもしれんけどさ。当時の私は、別に勉強好きでもなかったし、それ始まった瞬間から、「うっつわ、しんど！」ってなって休むことにした。もうな、一発食らった感じ。

—それ、言い方ちよっと食らいますね。

「うわ、まじか。ほんなんみんな分かるんやこれ。」「私、今初めて見るけど、みんな知ってんにや」ってなって。よくよく考えたら、知らん人も絶対おつたやろうけど、なんか自分にダイレクトにそれがきたような気がして。「あ、無理かもしれん」ってなって、休んだ。

—でも今はそれ、高入と中入みたいになってます。

なに？高入と中入は。

—中入はやってるけど、高入はやってないのがあるから。それで、先生とかも、なんか「中入はやってるよね？」みたいな感じありますね、今でも。

それ言われたらきついわ。たまらんなあ。

—勉強ってきつい。高校から急にレベルが上がりますもんね。

正直意味不明やったしな。一年休むって、もう元々決めてたから、きっぱり一年休んでから行くと思ってるん。やけど、なんやるな、先生からしたらさ、「そんなやつおるか」、ってなるやん。「このまま辞めるんやろうな」と思われてるだろうと思うねん。でも、行くなって自分の中で決めてて。

最後に「ああ、もう絶対学校行く、もう絶対卒業する」ってなった一発は、「一回休んで、卒業まで行くやつなんか、ほぼおらんから」みたいな面談があつて。親も呼ばれて、先生三人に言われて。それで「なんやと」ってなって、「やったろかい！」って思ったから、もう根性で卒業した、みたいなところがあるかな。

—逆に燃えたみたいなの？

—そうそうそう。もうそこまで考えて言っただけでしたら、えげつないと思うけど。まあ、でも、あれは響いたなあ。「絶対卒業したるし」って。振り返れば楽しかったけど。なんやかんや言っただけ。

行つてよかったしな。いいクラスというか、立守の子はみんないい子やと思う。ほんま、今どうかは知らんけどさ。

―でも、今でもいい人は多いと思います。いい人っていうか、結構、自分持つてる人多い気がする。

本当。すごいね。なかなか自分を持つてできひんことやし。

―そう思つたら、ほんまにいい周りの人たちやつたんですね。

そうやね。ほんまに助けてもらったよ。うん。もう、年もちやう

し、別にはぶろうと思つたらできたやろうしな。そうやけどな、みんな

「うめさん、うめさん」つて言つて声かけてくれた。

―すごい。めっちゃいい人たち。

そうやね。

―今でも仲いいですか？

うーん。みんなインスタとかやつてるんやろうけど、私あんまイン

スタやらへんからさ。でも、なんかいろいろ動画上げてる子とかいたな

ー。いや、すごかったよ。このメンバーはすごいよ。マジで尊敬できる

ね。何してんねんやろな、みんな。

*

立命館と今の生活、将来との接点

―文学部とか、どうやつて決めたんですか？

心理に行くつてだけ決めてたから。文学部心理学部専攻か、もしくは、

教育人間学専攻。で、心理学部は倍率高かったんか知らんけど、

「ちよつと龍では行けへんわ」「こつちの方が合つてる」つて、田辺先

生に言われて。「ええじゃあ、こつちっすかね。こつち目指しますわ」

つて言つて、教育人間学専攻に行つた感じかな。心理、臨床教育、あと

哲学。この三つが混ざつてるやつが教育人間学専攻やった。

―興味あつたんですか？そういうのに。心理とか哲学とか。

あつた。むちゃくちゃあつたね。だつて、自分が病んだつていう経験があつたし、学校休んだりとかしてたし。逆に言うと、「誰か助けな

いと」つていう使命感がえぐかつた。自分は復活できた。けど、復活し

たいけどできひん人がいる。その人を助けなあかん、つていう思いがす

ごく強かつた。だから、心理学系に行ったのかな。

高校に復学するつて決めたのはさっきの国語の先生の影響もあつた

よ。けど、最初に一年間経過した後に行くつて決めたものの、やっぱり実

際に行く二、三ヶ月前になると、どうしても「行けるんかな？」「もう

このまま家に引きこもつてたいわ」つて気持ちになつてしまつたんよ。

別に親とも仲いいわけでもなかつたから一人でしんどい思いをした。

やけどさ、私が一年休んでた時期に、その国語の先生以上に影響力

があつたのが、水谷修という先生やつた。先生っていうか、まあ、あの

「夜回り先生」、みんなの世代やつたら、知ってる人もいるかもしれん

けど。「いいんだよ」つて言葉がな、すごく響いて。非行少年とか、自

殺願望のある子たちとか家出して遊んでる子とかのところに突つ込んで

いつて、帰らなあかんやんかとか、どうしたん？とか巡回しておられた

先生がいるんやけど。その人の言葉で最終的に「よし！高校にもう一度

行こう」つてなった。影響力はめちゃめちゃ大きかつたね。結構有名な

先生やからね。検索したら多分出てくると思うんやけど。うん、学校の

先生もそうやけど、その外部の先生からも影響受けたかな。

―確かに、休んだら行きたくなる気持ち、めっちゃ分かります。自分

もつい最近、熱出して結構休んでたんですよ。そんなら「行きたくな

いな」つて。(笑)。

なるよなあ。ほんまに。別に学校好きでも、行きたなくなるか

ら、不思議よな。あれな。ほんまに。

—どうやって乗り換えたんですか？病んだ時に。

もう、ひたすら自問自答を繰り返したな。それはやってよかったんかどうかは、正直わからんけど。「じゃあ、学校行くのやめたとして、どうするんですか？」って。当時は、「中卒」ではさすがにどうしようもなくって思ってた。今やったらさ、なんぼでもやりようあるんやろうけど、その頃は「行かなあかんもんや」と思ってたから。近くの高校に転校すんのか、そのまんま、例えばバイトみたいなことして過ぐすんか。いろんな選択肢を考えて、自問自答を繰り返す中で、「せつかくいろんな可能性のある学校なんやから、とりあえず行き始めてみよう。途中であかんだったら、その時やめたらええわ」って思えたのが、大きかったんかな。

—大事な考え方ってありますか？そういう時。

大事な考え方かあ。「諦めんのも、一個の手段やで」っていうのは、思うかな。うん。で、これは特に伝えたいなと思ってたのは、よくも悪くも、この学校にいるってことは、ある程度一定の努力もあつたし、成功して、この場にいる人が多いと思うねん。

そやけど、それが良くも悪くもなるっていうのは、大失敗！みたいな、もう自分の人生終わらんちやうかぐらいの失敗って、多分みんなそんなにしてないと思うんよね。この学校に来ているっていうのが。それって、ある意味、怖いことでもあって、この先の人生で、なんか一つ失敗するとするやん。そしたら、もう「バキン」ってなんねん、心が。バキってなった時にもう終わり！ではなくて、それは今まどうまくいってきた人生の中で、今この瞬間だけ少しその上手くいった道から逸れただけやねん、実は。それでも、自分の中では完全に折れた」って思っ

やう。それは、もったいないかなって思う。失敗も経験した方が、人生楽しいかなって。

一回失敗したからって、終わりじゃない。全然。正直、「超・大失敗した結果この学校来ました」って人は、あんまり多くないと思う。まあ、もつと上の学校から落ちて、滑り止めでーす、みたいな子はあるんやろうけど。とはいえ、なんだかんだをうまくいってきた人とか、家庭の環境にも恵まれてきた人結構多いと思うんやけど。

でもな、失敗する方が学ぶこともあるし、一回失敗したからといって終わりじゃないから。全然。いっぱいミスっていいと思うし、いっぱいミスしてほしいねん。伝えなかったかなー。せつかく失敗しながら、今ここに至ってるんやから。みんな、ずっと「いい子いい子」「できてる」「いいよいいよ大丈夫」って言われながら、ここまで来たと思う。

でも、この先、社会に出て失敗したら「もうあかん」ってなることもあると思う。卒業生の中にも、「もうあかんわ」って思ってる人、いるかもしれないな。けどな、全然あかんことないから。生きてたら勝ちや。うん。生きてたら勝ちやで。ほんまに。

*

—じゃあ、まだしたいこと、いっぱいある感じですか？

いっぱいある。今までの三倍、四倍、もう十倍ぐらいやりたいことがあるかな。

—おー。何か教えてもらえますか？

社会保険労務士を、今目指してて。おっきい企業でも、むしろ小さい企業も、困ってる人って、絶対いるやん。人事制度のせいで孤立してる人とかもいるし、先生の労働環境とかもさ、今やつと変わってきたけど、まだ困ってる人は絶対いると思う。そういう人を助けられたらいい

なと思うな。

―結構、高校の出来事とつながっていますね。

かもしれないな。なんか今そう言われて、初めて気づいた「助けたいぜ」って(笑)。そうかもしれないな。うん。困ってる人って、大体少数派になるやん。でも、それではよくないよね。やっぱその人もいてこそ会社やし、世界やし。この世の中成り立つのも、みんながいるからであって、欠けていい人なんかいいひん。

*

―大学自体も、数増えてきてますしね。

うん。ほんまに、いろんな人出るな。大学でもそうやし、社会人になってからも、なおさらやな。ギャップになるのは、結構そこやと思ってる。みんな言うてもさ、立守の子賢いし、大学行ってもさ、優秀な人ぶわーって集まるやんか。でも一步社会出たら、別に「勉強で生きてきてないよ」の人もいるやん。今までは、ある程度、偏差値が固まった世界に生きてるやん。

でも、そこから先って、もう偏差値なんか何にも関係ない。例えばもう仕事一筋でやってきた人が部下になる可能性もあるし、上司になる可能性もある。その時に、その感覚を合わせていくって、難しいと思う。私も結構そこで戸惑ったこともあったかな。だからといって、「こっちのレベル落として話さない」とか、そんなじゃなくって。その人には、その人の人生の積み重ねがあるやん。それを尊重して、でも、やってもらわなアカンこともある。で、向こうから要望もある。これを両立すんの、むっちゃ難しい。うん。むちゃくちゃ難しい。

でも、今のうちに、「これだけは」という自分の軸があったらやりやすくなるかもしれない。自分の軸を元にして「じゃあ、この人の考えを

取り入れようか」という判断とかもできるようになってくる。自分があるってすごく大事。そこがブレたら終わりやん。「じゃあ君のやつもやって、こっちもやろうか」ってなるとそれは取り入れてるんじゃないやん、ただブレてるだけや。そうならへんように、一本、芯がある方がいい。

―なるほど。

学校出て、社会出てから、いろんな偏見が自分の中にあつたことにも気づいた。私、応募書類に、「多様性がなんとか」と書いてるやん。最近色々あつて。自分には自分の芯があります。でも、この人にもこの人の芯があります。で、その差とか、距離感とか、それ自体が多様性なやなつて思うようになった。自分が「嫌だな」って思うこともあるやん。でも、「やだな」っていうのも一度受け入れていくのが大事やなと思ってる。

立命館を選んだ理由の話にもつながるねんけど、私、この当時は「宗教」って、正直気持ち悪いもんやと思ってる。でも、今は全然違う。信じるものがあるって、すごく素敵なことやなってる思う。例えば同志社とかやつたらキリスト教とか、他にも仏教系の大学とかさ、あつたりするやん。でも、立命館って、そういう「掲げてる宗教」みたいなんは、特にないやん。だから、この学校を選んだっていうのも一つあんねん。

でもな、社会人になってから振り返ったら、別に「同志社やし、キリスト教でーす」って言ってもさ、周りからしたら「だから？」って話やねん。でも、当時の私にとっては、それがどうしても「アカンもん」「嫌なもん」やと思ってた。その結果、自分で世界を狭めてもうてたんかなって思うねん。やけど当時は、「嫌いや」っていう変な偏見があつ

て、それで自分の道をひとつ狭めてもうた感じがする。あれは、マジでもったいなかったなと思うな。嫌いなやつたら、ちゃんと「嫌いな理由」が明確にあんにやたらいいねんけど、「なんとなく」って理由で避けるのは、ほんまもったいない。一回触れてみて「私とは合わないな」はいいけど、一回触れてみた方が、人生の幅は広がるかな。

―結構、避けちゃうなあ、自分。なんとなく。

あるある。なんぼでもあるで。うん。多感な時期やし。うつわ、なんか会った瞬間から「この人、嫌いやな」とかあるやろうし、「このジャンル、なんか苦手」って思うこともあると思う。でも、触れてから嫌いになるのは、むっちゃいい人生になると思う。好きなもんって、触れてから好きになるけど、嫌いなものって、触れる前から嫌いだったりするやん。めっちゃもったいないねん、これって。「自分の道じゃない」、はい、終わり。つてなつてまうから。でも、ちよつと角度をずらして見てみたら、「え、なんか自分の考えと合ってるやん」つてなつてくんねん。自分の人生の軸の幅が、狭くなるからさ。だから、嫌いなものも、やつてみるのはアリやと思う。嫌いなもんも食べてみる。ちなみに嫌いなもの、ある？

―嫌いな食べ物……うーん。きゅうり。

食べてみ？

―食べてます（笑）。食べても嫌いなんです。

じゃあそれは明確に嫌いやわ（笑）。こうやって話を聞いてもらえるのも嬉しいけど。「なんで先生がこんなことをさせようとしてるんやろ」つていう先生の意図も、なんとなく見えてくるから。いや、でもこれ、すごいことやつてると思うなあー。だって普通、大人の話なんか聞けへんやん。普段、触れ合う大人って、自分の親か先生かしかしいひん

やん。でも、この社会出たらさ、会うのつて「こつち側の人」やん。じゃあ、小さいうちから、いろんな大人の話を聞いて、職業の話とか、生き方の話とか聞けるのは、めっちゃいい機会やと思う。門野さんみたいに、将来は建築つて決まってる人の方が、多分少ないと思うから、「今、こんないいな」つて思えるきつかけになると思う。この機会、すげえ考えられてるなと思う。

―自分は、今まで哲学とか全然興味なかったんです。心理とかもあんまり。でも聞いたらありかなつて。

そう、一回触れてみるとな、「あ、ありかも」つて思うこと、全然ある。楽しいし、自分のこともわかるし、自分をうまく扱う方法も見えてくると思う。何やつてもいいからね。法に触れへんかったら。触れんのも、もしかしたらいい経験なのかもしれん。わからんけど（笑）。

いろんなことできるからな。可能性の塊やから。背負うのも自分やけど、自分の可能性を閉ざすのも、自分やから。せやから、なるべく裾野広げてほしいな。いろんなことやつてな、いろんなこと体験したらいいやん。なんでも感じれるからな、今の時代。めっちゃ興味湧くものが、出てくるかもしれん。それを知らんまま終わるのは、ほんまにもつたないからさ。

【感想】

今回、梅谷さんのお話を聞いて、学べたことが非常に多かった。少し特殊な学校生活を送ってきたからこそ気づけたことをお話くださり、その中で自分自身も新たに気づくことがあった。「失敗をすること」を恐れずに」という言葉はよく耳にするが、タイトルにもなっている「失敗も経験した方が人生楽しい」という表現には、強く惹かれた。こ



右：聞き手 門野 滯良
左：語り手 梅谷 龍さん

の言葉は、自分のこれからの人生にそのまま生かせる考え方だと感じた。今まであまり意識してこなかった「失敗をすることの意味」が、梅谷さんの話を通して、自分の中にスツと言葉として入ってきた。